

コロナ禍において奮闘する 先生方のためのオンライン・リレー講座

京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM は、広く教育に関心を持っている人びとが集まり、ともに語り合うことを通して、お互いの教育力量を向上させることを目的とした「広場」です。新型コロナウイルス感染症の影響により、社会環境の変化、オンライン授業の実施、子どもたちへのケアなど、多くの先生方が今まで経験されたことのない状況のなかで奮闘されていることと存じます。E.FORUM では、そのような先生方のお悩みを少しでも解決できないかと考え、オンラインによるリレー講座を企画いたしました。先生方のご参加をお待ちしています。

日程 2020年 7月5日(日)、19日(日)、8月2日(日)、16日(日)
14:00～16:00

対象 学校・教育委員会の関係者、教員志望の学生

定員 300名程度

受講料 2,000円(税込)/回 ※クレジットカードのみ
本学都合以外での入金後の返金は一切できません。何卒ご了承くださいませ。

環境 ZOOMによるオンラインライブ配信
(インターネット環境が必要です。データ容量 1GB程度)

共催

京都大学大学院教育学研究科
教育実践コラボレーション・センター
京大オリジナル株式会社

申込先

<https://www.kyodai-original.co.jp/?p=7791>

申込締切

各回 1週間前(日曜)まで
(定員に達し次第、締め切ります)



問合せ先

京大オリジナル株式会社 研修講習事業部
Tel: 075-753-7778
E-mail: kensyu@kyodai-original.co.jp

プログラム

	日程	テーマ	講師
第1回	7月5日(日)	「子どもたちの学ぶ権利を保障するとはどういうことか —with コロナの中で—」	石井 英真 准教授 京都大学大学院教育学研究科
第2回	7月19日(日)	「コロナ禍において求められる批判的思考力」	楠見 孝 教授 京都大学大学院教育学研究科
第3回	8月2日(日)	「コロナ禍における心のケア」	西 見奈子 准教授 京都大学大学院教育学研究科
第4回	8月16日(日)	「コロナ禍におけるカリキュラム・マネジメント —パフォーマンス評価をどう活かすか—」	西岡 加名恵 教授 京都大学大学院教育学研究科

14:00～14:10 オープニング

14:10～15:00 講演

15:00～15:10 休憩

15:10～15:30 ブレークアウト・セッション

15:40～16:00 質問に対する応答

◆ご注意ください

- 開催4～5日ほど前に視聴用アドレスをお知らせします。
- 受講対象以外の方(企業の方など)は、ブレイクアウトセッションにはご参加いただけません。予めご了承ください。
- ZOOMの仕様や使い方に関するお問合せにはお答えいたしかねます。
- お客様の環境等が原因で発生した、視聴できないといったトラブルに関しては個別の対応や返金等はございません。予めご了承ください。

コロナ禍において求められる批判的思考力

1. コロナ禍に必要な資質・能力
2. コロナ禍における社会の変化と新しい教育の目標
3. リスク社会に対処するための汎用的能力
4. 汎用的能力としての批判的思考
5. リスクに対処する批判的思考の構成要素
6. コロナ禍のリスク認知
7. リスクリテラシー
8. リスク問題解決のためのリスクコミュニケーションと教育
9. まとめ

楠見 孝

京都大学大学院教育学研究科教授

<http://cogpsy.educ.kyoto-u.ac.jp/personal/Kusumi/>

<http://cogpsy.educ.kyoto-u.ac.jp/personal/Kusumi/SChome.htm> (リスクについて) 1

はじめに

- コロナ禍において、教員は、多くの新たな問題に直面し、解決することが求められている
- そのためには、感染リスクと新たな教育についての情報を、メディアから読み解く**メディアリテラシー**と、リスクに対処するための**リスクリテラシー**、それらの土台となる**批判的思考力**が重要
- 本講座では、こうした力を、自ら身につけるとともに、学習者に伝え、育むにはどのようにしたら良いか、皆さんと考えたい

2

コロナ禍の児童生徒に伝えること

- 感染状況が変化する中で、リスク情報を的確にとらえ、感染拡大、誤った情報、偏見を抑制
 - 科学的で論理的・批判的な思考と行動
 - 教師と児童生徒がともにおこなうプロセス
 - リスクから身を守る具体的な知識やスキルを身につけて実行
 - リスク情報を正しくとらえ、主体的に対処するリスクリテラシーの育成
 - 先生がいなくても、ルールがなくても判断
 - 他者に対する**感謝と寛容さ**、**共同体感覚**

3

リスク社会と向き合う

新型コロナウイルスは危機であるとともに、

- **リスク社会**に立ち向かうための学びの機会
 - **リスク社会**(独の社会学者:ベック)＝全ての人に影響、リスクが見えない、世界規模の拡散、破局的危機
 - もっと強力なウイルスや病原菌、災害はこれからも起こる
- **新たな学びの方法や場の広がり**
 - ICT化では、GIGAスクール構想(一人1台PC)が前倒しに
 - 2030年の予測不可能の未来が早く到来
- コロナ後には、もとに戻るのではなく、**個人も学校も成長**することが大切

4

1. コロナ禍に必要な資質・能力

- コロナ禍の社会では、これまでの教育方法や考え方がそのまま成立しない
- 教育観, リスク観, 価値観の変化
 - 自分の経験や信念からの脱却が必要
 - 誰かがやってくれる安全な社会か
 - 協働して自分たちを守るリスク社会
- リスクを判断し, 異なる価値観を理解する
 - 柔軟性と広い視野, 対処能力をもつための21世紀スキルの4Cが必要
 - 批判的・創造的思考(クリティカル・クリエイティブ)
 - コミュニケーション, 協働(コラボレーション)

5

コロナ禍の学習者にとともに考えてほしいこと

- どのようにしてコロナウイルスが感染するか
- どのようにしたら感染しないようにできるか
 - 学校や先生たちは, どのようにして危険を避けようになっているのか
 - 危険を避ける決まり事はなぜあるのかを知る
 - どうしたらもっとうまくいくか(危険を下げつつ, 大変でない方法)を考える
- コロナに伴う差別や偏見はなぜ起こるか
 - どのようにしたら防ぐことができるか

6

2 コロナ禍における社会の変化と新しい教育の目標

- コロナ禍による
 - 変化に対応できる**思考力**を育む
 - コロナ後の社会に**変革を起こす力**を考える
 - これまでは, 予測可能な社会で, 正解がある問題を一人で早く解く能力を重視
- 今後は, 世界の多様な背景をもつ人と**協力して正解のない問題を解く能力**の育成が一層必要に
 - 批判的思考を基盤にした協働的問題解決能力の育成

7

従来の学力の育成目標を土台としたプラスアルファが必要

- これまでの学校教育では, 各教科における内容的知識や技能を教えることを重視した, 学力育成を目標
 - 従来の学力は, **教科学習によって, 学習者が獲得した能力**
 - テストなどの課題によって, 学習者が身につけた教科内容(知識や技能)の達成度が測定される能力

8

学力の3要素の育成目標＋アルファ

①基礎的な知識・技能

リスクを理解する科学, メディア, 統計リテラシー

①を活用して解決するために必要な

②思考力・判断力・表現力等

→汎用的な認知能力(知的側面)

リスク認知とリスク対処のための問題解決

③主体的に学習に取り組む態度

→非認知的能力(情意・態度的側面)

リスクの問題解決のための動機づけ, 態度, 協働なども含む

9

3 リスク社会に対処するための汎用的能力

- ・ **リスク下**の社会において自立的に生きるために必要とされる**コアとなる力**
- ・ 学問領域, 市民生活, 職業, **リスク対処**において適用できる技能, 転移可能な技能
 - 21世紀能力, コアスキル, キー・コンピテンシー, employable skillsなどに対応
 - ・ **コンピテンシー(コンピテンス)**は, 個人がもつ属性・**資質**(知識, スキル, 態度や動機づけ, 価値など)であり, それらが様々な場面で発揮される**能力**を含む包括概念
 - 汎用能力(スキル)は, 小中高大の教育において, 教科・領域横断的に, 習得すべき内容

10

汎用的能力としての資質・能力の育成

(1) 汎用的能力の枠組み: 認知的-非認知的スキル

新学習指導要領では, 育成すべき汎用的能力として, 「資質・能力」を位置づけ



中教審(2016)幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)

11

学力の3要素に基づいて「資質・能力」の育成を捉える

1. (リスク社会に生きて働く)知識及び技能が習得されるようにする(何を理解しているか, 何ができるか).
 2. (未知のリスク状況にも対応できる)思考力, 判断力, 表現力等(認知能力)を育成する(理解していること, できることをどう使うか).
 3. (学びを人生やリスク社会に生かそうとする)学びに向かう力, 人間性等(非認知能力)を涵養する(どのようにグローバルなリスク社会と関わり, よき人生を送るか)
- ・ これまでの学習指導要領, 学校教育において育成されてきた「生きる力」は変化の激しい**リスク社会**を生きるために必要な「**資質・能力**」として位置づけ

12

21世紀の教育とリスク社会のための 汎用能力の枠組みの比較(楠見, 2018を加筆)

スキルの種類	OECD(DeSeCo) キー・コンピテンシー (2003)	ACT21S 21世紀スキル (2010)	国立教育政策研究所 21世紀型能力 (2013)
認知スキル リスクの理解と問題解決 テクニカルスキル リスク情報分析	道具 (言語 シンボル テキスト 知識と情報 テクノロジー等) の相互作用 (リテラシー)	思考の方法 批判的思考 問題解決 意思決定 創造性 学習方略 メタ認知 仕事のツール 情報リテラシー ICTリテラシー	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>基礎力 言語スキル 数量スキル 情報スキル</p> <p>思考力 問題解決・発見 論理的・批判的・創造的思考 メタ認知・学び方の学び</p> <p>実践力 人間関係形成 社会参画 持続可能な社会づくり 自律的活動</p> </div>
非認知スキル 人間関係スキル 協働による リスク対処 自己管理 スキル	人間関係形成	仕事の方法 コミュニケーション チームワーク	
個人による対処	自律的行動	世界の中で 生きる方法 コラボレーション 市民性 人生設計と実行...	

13

(2) コロナ禍で資質・能力をいかに育成するか

1. 知識や技能の習得

- 知識や技能を、**コロナ禍の経験や現実世界と関連づけて教える(真正の学び)**(例:感染者数の統計の見方など)
 - 評価では、コロナ禍の問題解決場面を用いて、知識や技能をパフォーマンス評価

2. 思考力などの育成

- 知識や技能の活用のために、**コロナ禍の現状を分析して推論する批判的思考力、問題解決力や創造性などを、総合的学習の時間**などを通して育成

3. 学びに向かう力(非認知的能力)

- 総合的学習の時間、課題研究、課外活動**などにおいて、**コロナ禍、コロナ後の社会・世界のために、何ができるかを考えること**を通して、**動機づけ、自律性、協働・社会的スキル**等を育成

14

(3) コンピテンシー・ベースの深い学び

- 資質・能力(コンピテンシー)の育成を重視する**コンピテンシー・ベースの教育**は、従来の**コンテンツ(内容)ベースの教育**と対比的(奈須ほか,2014)
- 資質・能力(コンピテンシー)の育成は、**深い学び**を通して「**見方・考え方**」を育成することによって、**リスク社会の問題解決**で生きる**転移可能な汎用的能力の育成**を目指す
 - 深い学びとは、**教科で学んだ概念や見方を活用して、問題発見・解決し、自分の考えを表現し、創造に向かう学び**(たとえば**感染症の地理的分布と人の移動の関連、時代による変遷などをとらえる学習**)。
 - 深い学びには、意味的な精緻化、既存の知識や経験との関連づけ、パターンや法則の発見等が関わる。
 - こうしたプロセスをともなう対話や振り返り・分析が、転移を促進

15

(4) 教科固有の思考法:見方・考え方

- 教科の領域知識の学習によって、生徒が獲得するのは、内容的な知識や技能に加えて、**教科固有の思考法**
 - 科学的・数学的思考法、社会的事象の歴史的見方・考え方など
- 各教科の「**見方・考え方**」は、**コロナについて新たな知識を学ぶ**枠組となり、**コロナ禍の社会の問題を解決**する時に、転移して活用できる。
 - 例:**コロナ禍の社会の学習**を通して、**経済、医療**といった「**システム**」を理解→「**システム**」が人にいかに影響しているのかという見方で振り返る
 - コロナについての社会科学習**が、学習者の思考過程に作用し、市民性、さらに異なる文化や価値観の人と協働する際にも生きる
 - 例:理科や保健教育において、**ウイルスについての知識を、数学教育において、感染拡大を扱う統計スキル**を学ぶ→科学的、数学的思考法を身につける
 - 科学・技術、リスクに関する社会的意思決定に参画できる市民に
- 他教科、さらに**リスク社会の問題解決への転移**が起こるのは、教科で育成した**思考法や問題解決法**、さらに、**協働して問題解決をおこなうスキル**

4 汎用的能力としての批判的思考

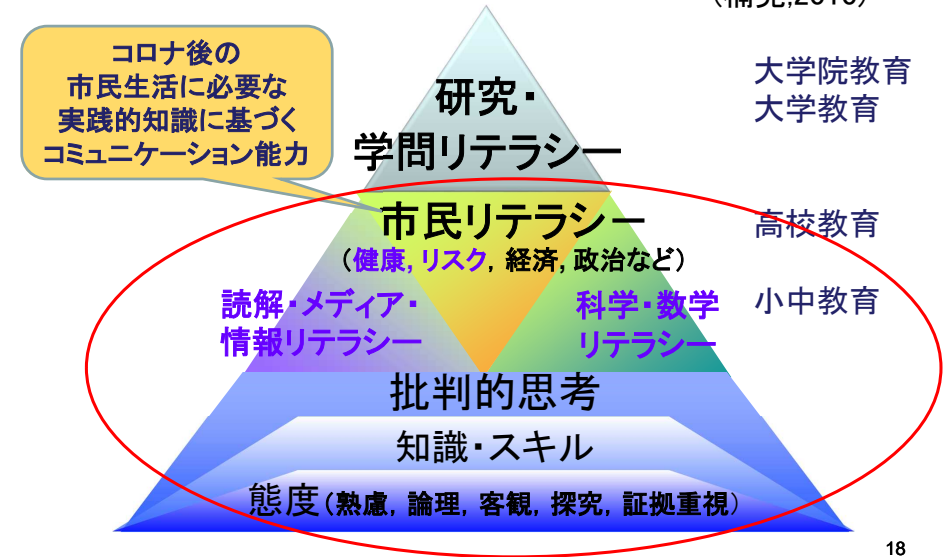
(楠見,2015,2017a)

- 適切な規準や証拠に基づく, **論理的**で偏りのない思考
 - 多面的, 客観的にとらえる(例: 新型コロナの情報)
[分析的, 論理的, 多角的]
- 内省的**思考(リフレクション)
 - 「相手を非難する」よりも, 自分の思考を意識的に吟味する
[メタ認知](例: 自分と異なるコロナの見解への非難)
- 問題解決や判断を支える**汎用能力の中核**
 - 学習, 市民生活, 職業, **リスク対処の実践を支える**
 - 問い, 情報収集, 推論, 行動決定, 問題解決
 - 目標志向的
(例: コロナ禍の課題を発見, コロナ禍の社会に向けての解決)

17

リテラシーを支える批判的思考

(楠見,2010)



18

コロナ禍の課題を探究活動で 取り上げるには批判的・創造的思考が重要

- 創造的思考**は, 批判的思考によって吟味をしていないと, 単なる思いつきになってしまう
- 批判的思考**は, **建設的, 創造的**な部分がないと, 単なる非難, 否定的思考になってしまう

探究のステップは**批判的思考**が土台

1. 課題発見と問題の明確化
2. 情報収集
3. データ分析, 考察
4. 論理的にまとめ, 発表, 問題解決

19

コロナ禍の課題を通じた批判的思考育成

- 批判的思考によって, **コロナの社会問題に関する情報**を適切に評価, 選択
 - **社会についての多角的な理解**
 - コロナを巡る**地域社会や国際社会の矛盾**への気づきや批判から社会的問題解決
 - メディアリテラシー, ネットリテラシーの育成
- コロナに関する探究の内容を自己の経験に関連づけ**
 - **個性の確立**
 - 自分の関心を深め, 経験を積み, 将来に結びつける
- コロナに関する探究活動を通じた教科を越えた思考スキルの獲得**
 - 自分の意見を論理的に相手に伝え, 相手の立場を理解する **コミュニケーション能力**(対話, 討論スキル)の育成

20

なぜ教員と学習者に批判的思考が重要か

1. 批判的思考を身につけることは、**リスクに対処する教員と学習者、グローバル市民として必要**
 - 社会や技術の問題を発見し、解決するために、自ら考え、判断・行動するための思考力
2. 自らの**自己中心的思考**、**先入観**、**バイアス**に気づき、異なる立場の人の意見に耳を傾け、**協働してコロナ問題を解決**
3. 証拠(事実)に基づいて、考えを明確に、自信を持って発言
 - 相手を説得・動かす、影響力をもつ、リーダーシップをとる
 - **間違った情報**、**不安や偏見を助長する情報は、訂正する**
4. 学級・学校運営、日常生活において、**適切な情報に基づいて、リスクを低減する判断と決定**
 - リスクに関する情報を適切に評価、選択、問題解決へ
5. 否定的な考え方や**不安にとらわれないようになる**
 - 自分の悩みを合理的に分析(自己理解)、セルフマネジメント
 - リスクを下げるために、**心(注意)を配ることが重要**

21

人の認知におけるバイアス

系統的な**バイアス(認知の歪み)の自覚と修正が重要**

- **信念バイアス**: 論理的な正しさよりも、自分の信念にあてはまるかどうかで、妥当性を判断
- **確証バイアス**: 自分の信念に対して都合のいい情報を重視したり、集めたりする
- **正常性バイアス**: 異常が生じているのに、通常のことと認知して、リスクを過小評価
- **ステレオタイプ・偏見**
- 自らのバイアスに気づかない**バイアス盲点**
→**授業の中で、自分自身を振り返ってみる**

22

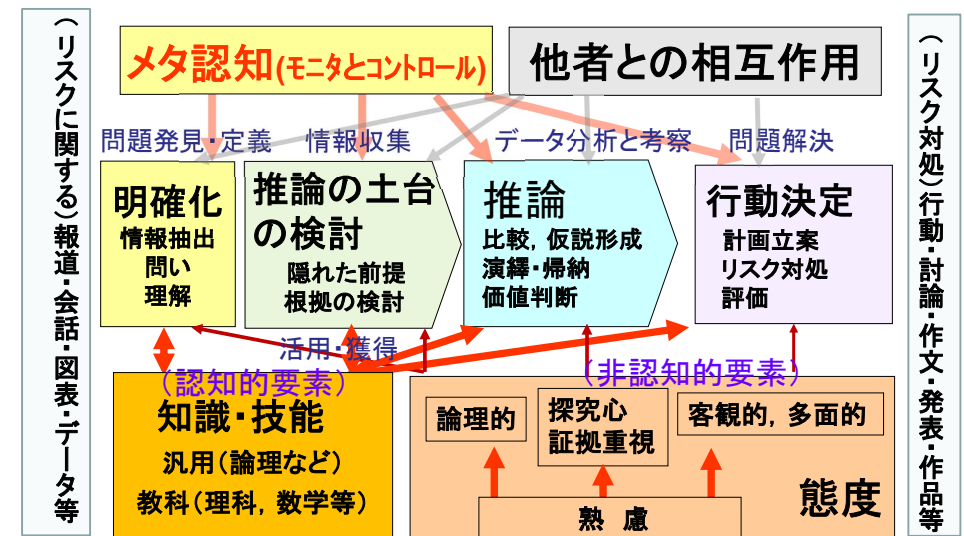
批判的思考の構成要素

(Zechmeister & Johnson, 1992を改変)

- 認知的側面・・・能力とスキル, 知識
 - 教科を越えた**情報分析, 論証, 問題解決の汎用スキル(領域普遍)**
→**探究を通して獲得**
 - 教科の**知識, 方法論のスキル(領域固有)**
→**教科を通して獲得**
知識や方法論がないと単なる非難, 否定に
- 情意(非認知)的側面・・・態度
 - すべての活動に関わる**熟慮性, 探究心, 客観的, 論理的であらうとする態度,..(領域普遍)**
 - 教科で育成する**科学的態度,..(領域固有)**

5 リスクに対処する批判的思考の構成要素

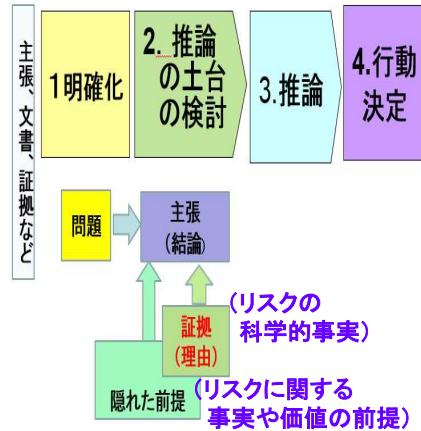
(楠見, 2015, 2017aを改変)



5.1 明確化

相手の発言や文章を正確に理解するために、

1. 問題(テーマ)に焦点を当てて、それを明確化
2. 主張(結論)とそれを支える根拠(理由, 科学的事実)を明確化
3. 論理(根拠と主張の構造, 標識語など)を分析
4. 明確化のための問い(問題は? なにが主張か? 根拠は?など)を出す
5. 用語を定義する(例: 第二波)



5.2 推論の土台の検討

推論の土台としての主張, 科学的事実, 以前の結論

(1) 隠れた前提を見抜く

- 証拠と主張に飛躍はないか?
- どんな事実の前提, 証拠があれば議論が成り立つか?
(事実前提の例: 飛沫感染はマスクで防げる)
- どんな価値観を持っていれば議論が成り立つか?
(価値前提の例: 感染防止は最優先すべき)

26

隠れた前提を見抜くには

- ・ 相手と話が通じない, 意見が異なる
 1. 前提が異なる場合がある
 2. 相手と話をしたり, 相手の背景を調べて, 前提を明確化する
 3. 自分の意見を分析して, 前提に気づく
 4. 食い違う自他の前提に焦点を当て, 妥当性を吟味する
 - a. 事実前提の相違は, 証拠や定義の違いをすりあわせて対立解消(例: マスクの効果についての科学的証拠)
 - b. 価値前提の相違は, 互いの価値観を尊重して解決を探る(例: 感染防止と活動についての優先順位)

27

(2) 情報が信頼できるかを判断

1) 信頼できる情報源か(情報科等で育成)

- a. 大学教授, 博士, 医師, 有名人の発言がすべて信頼できる訳ではない
 - 発言内容と専門性が一致しているか?
 - 事実と意見を見分ける
 - 断定的, 一面的主張は要注意
 - » 説明は仮説であつたり, 対立意見があつたりする
- b. マスメディアは, 編集段階でチェックが入っている。しかし, 正しいとはかぎらない
- c. 一次資料(データ, 統計, 研究論文・資料など)をチェック

28

2) 異なる情報源で一致しているか

- 証拠を多面的に探す
- 確証情報だけでなく反対情報も探す

3) 科学的方法をとっているか？(理科で育成)

- たくさん的人数で調べているか
- 比較のための対照群はあるか
- チェックのある専門学術雑誌に発表されているか(チェックのない学会発表,本)

- 全ての説明はある程度は仮説(断定は危険)
 - 科学者によって異なる見方(例:感染拡大の見通し)
 - 最悪のケースと望ましいケース→その中間
 - 説明中のデータと解釈・意見を見分ける

29

5.3 推論

根拠から結論が導けるか(結論の理由づけが根拠にあるか)?

1. 帰納における判断
 - i. 一般化(データの典型性, 網羅範囲, サンプルングを考慮)
 - どのような条件, サンプル, 仮定で研究したのか
 - 過剰な一般化をしていないか? 理由を単純化していないか
 - ii. 探索的な結論や仮説の推論
 - 調査(証拠と反証)をして, 仮説や結論の合理性(無矛盾性, もっともらしさなど)に照らして判断
2. 演繹(三段論法など)の判断
 - 推論過程に誤りや簡略化はないか(例:誤った二者択一)
3. 価値判断(背景事実, 結果, 選択肢, バランスなどの判断)が必要
 - 様々な情報を集め, 比較して, 自分自身で判断

30

5.4 行動決定

1. 直面する問題を定義する(例:コロナ禍の入試方法)
2. 判断のための規準を選択
 - 多面性, 客観性が重要(例:正確性, 受験生の利益, 実施のしやすさ)
3. 複数の選択肢をあげる
4. 仮の決定をする
 - シミュレーションして, 不十分な点を解消
5. 実行しながらモニターし, 最後に振り返る

- 他者との相互作用(対話, 議論など)が大切
 - 結論や主張を他者に伝えるためには, 結論や考えを明確に表現し, 相手の心情に配慮しながら伝えるコミュニケーションのスキルが重要
 - アドバイス, 助力を求める

31

5.5 批判的思考態度(平山・楠見,2004)

批判的思考は, スキルだけでは, 発揮されない.

-「客観性」

主観にとらわれずものごとをみる

-「探究心」

さまざまな情報や知識を求める

多面的

-「論理的思考の自覚」

論理的にとらえようとしているか

-「証拠の重視」

証拠に基づいた判断


-「熟慮」

じっくり立ち止まって考える

32

6 コロナ禍のリスク認知

リスクとは

 **望ましくない事柄の起こる
不確実性の程度(確率)** × **被害の大きさ**
(例:健康被害)




一般市民のリスク認知

- 危ないって感じること
 - ・ 不安や恐怖、破局のイメージ(カタストロフィバイアス)
 - ・ その逆の非現実的楽観主義(正常性バイアス)
 - 便益, 受け入れ可能性
 - 思い出しやすさ(利用可能性ヒューリスティック)
 - 年齢・男女, 子どもの有無, 知識などによる**個人差**
- 主観的確率や損失の大きさの推定→**統合された心理評価**

33

リスク認知のプロセス

(1) リスクの同定 リスク存在への気づき

-  市民のリスク認知は,
知識や関心がない場合は楽観的・鈍感
楽観主義バイアス(非現実的楽観主義)
知識や関心がある時は, 敏感
カタストロフィ・バイアス(破局を恐れる)
-  専門家のリスク認知
知識や経験によるベテランバイアス, 正常性バイアス
-  マスメディアの報道頻度と内容は,
知識を媒介してリスク認知に影響
- 日本における新型コロナウイルスに対するリスク認知は,
最初の頃は経験が無いため, 正常性バイアスによって,
従来のインフルエンザ, SARS等と同程度のリスクと捉えた
→リスクを過小評価して, 楽観的であった。

34

非現実的楽観主義(Weinstein,1980)

- 個人的リスクの過少見積もり
 - 特定の人(自分)だけ, リスクが低いことに根拠がない点で非現実的
- 病気罹患のリスクに顕著
 - **新型コロナ**, 生活習慣病, アル中, 食中毒
- 恐怖喚起コミュニケーションの限界
 - 有効な説得的コミュニケーションのためには,
リスク対処情報を含むことが重要
 - 恐怖の喚起は, 過剰な防衛(例:感染者への忌避や攻撃)に結びつくことも

35

(2) リスクイメージの形成

リスク事象の同定→そのイメージ形成

マスメディアの影響は大

リスクイメージの因子分析(Slovic,1987)

第1因子 **怖しさ**のイメージ

リスクが制御不能, 多くの人々が被害, 破局
→**恐しさ**(例:新型コロナウイルスが感染拡大した
イタリアや米国の状況)

第2因子 **未知性**イメージ

リスクが新奇, 発生原因や被害が未知
→行政への要求(例:新型コロナのための入国規制強化)

36

(3) リスクの推定

市民の場合

ヒューリスティクスによる直観的判断

知識や認知能力の制約

利用可能性ヒューリスティック(例:コロナによる有名人死亡)

, メンタルシミュレーション

→ 系統的バイアスの可能性

専門家の場合

統計データ(生起確率や損失)と理論に基づいて,
健康, 経済的影響などを予測

不確実な部分がある(専門家の意見が分かれることも)

(例:感染拡大のシミュレーション)

37

(4) リスクコントロール

市民のリスク対処行動

– リスク生起確率と結果の程度を低減する対処行動(例:
手を洗う, 距離をとる, 顔を触らない)

– 対処行動不能 → リスク認知を低減し, 行政などへの信
頼を高めて, 認知的不協和や不安を解消

専門家によるリスクコミュニケーションの役割

– 正確なリスク情報だけでなく, 安全を高める行動や リ
スク対処スキルについて適切な知識を提供

38

距離を取る, 手を洗うとともにリスクを下げること

顔に触れないために

新型コロナウイルス(COVID-19)感染症拡散を防ぐための行動科学者からのヒント

敏感になる
顔に触りそうになったら周りの人に注意してもらおう
顔に触りそうになったら気づくようにプレスレットなどをつける
ペンとノートを持ち歩き、一日何回顔を触ったか記録する

他者を助ける
あなたの大切な人たちのためにあなたの顔を触らせないようにする
他の人が顔を触っていたらそっと教えてあげる

手を他のことに使う
自分の手はポケットに入れておく
手に何かを持っておく(小さなボールとかカードなど)
顔を触りそうになったら、1分間握りこぶしを作る

姿勢を変える
肘掛のないイスに座る、長椅子の真ん中あたりに座る
自分の顔に触りそうになったら、手のひらをおしりの下に入れて座る

リラクゼーションの実践
長くゆっくりと深い呼吸をし、緊張を感じる筋肉をリラックスさせる
静かな場所に座って、(過去や未来ではなく)今この瞬間に集中する
他の人から安全な距離をとった自然の中、たとえば樹の下に座ったりして時間を過ごす

その手で顔を触ってはいけない!

より詳しい情報は以下にあります: <https://wp.me/p8IxYp-1tg> (英文)

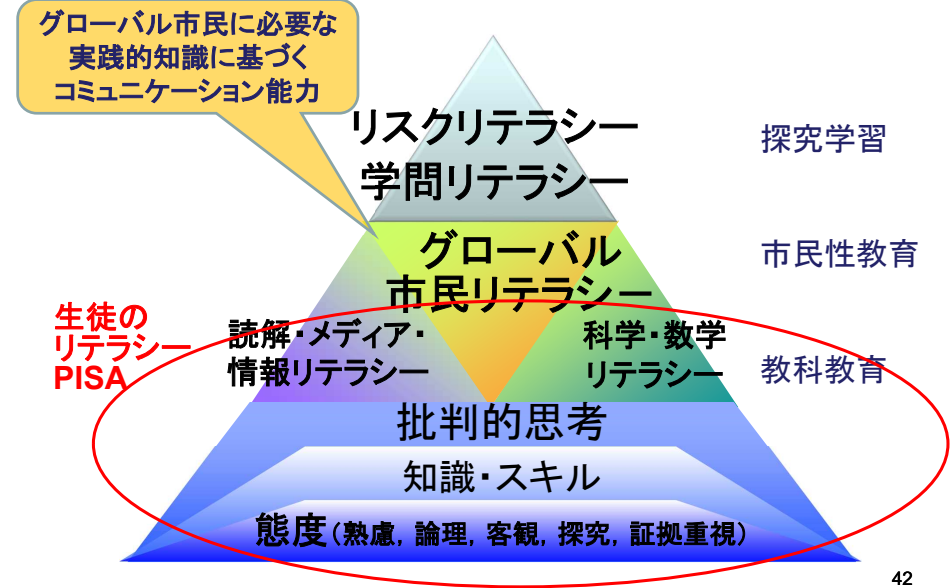
7 リスクリテラシー

- リテラシー(OECD, PISAの定義)
 - 情報にアクセスし, 管理・統合・評価する能力
 - 知識の実生活での応用のためのコミュニケーション能力
- 市民リテラシー
 - 市民が生活に必要な情報を読みとり, 適切な行動を行なうための能力
 - 市民生活に必要な健康, リスク, 経済, 政治, 法律などの知識に基づく読解能力・コミュニケーション能力
 - 市民性(citizenship)の中核
 - 市民が, 自律的な責任感をもって, 社会に関わり, 問題解決, 投票行動, 倫理的・道徳的判断
 - 批判的思考を土台

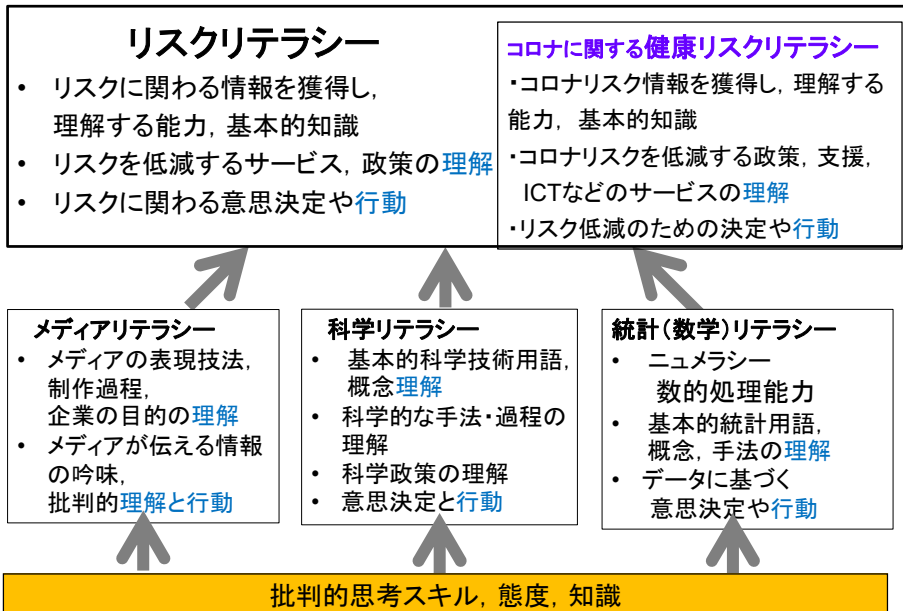
リスクに対処する 世界市民のためのリテラシー

- グローバル社会の問題(新型コロナ等)を解決するために、**批判的**、**多面的**に分析するスキル、知識、態度
- グローバル・コンピテンシー(e.g.,OECD, 2016)
 - スキル＝分析的・**批判的思考力**
 - 知識と理解＝グローバル社会に必要な文化、外国語、歴史、地理、宗教、政治などの知識を踏まえた**異文化理解能力と対処能力**、**コミュニケーション能力**
 - 態度＝他の文化に対する開かれた態度、敬意、責任
- **グローバル社会の市民性(global citizenship)**

リテラシーの階層 (楠見,2015を改変)



リスクリテラシーの構造 (楠見,2012を参考に作成)



インフォデミック (information+epidemic)

- 大量の情報がネット上で、噂やデマも含めて氾濫し、社会、人に影響を及ぼす現象
 - 不確定な情報、誤った情報、不安・恐怖を増幅する情報が、**過剰な防衛反応**、特定の人々への**偏見やバッシング**、**自粛警察**などの現象を生み出す
- 適切な判断をおこない、誤情報を拡散させない
- 批判的思考**、リスクに関する正しい知識、**リスクリテラシー**を高めることが重要

8 リスク問題解決のための リスクコミュニケーションと教育

市民(学習者)のリスク認知が、リスク対処行動に結びつくようにするために、適切なタイミングで、

- 専門家は、科学的根拠に基づき測定・予測した(確実/不確実な)リスク情報と対処行動を提供
- 政治家は、政策の目的と根拠、議論と難しい決定を説明
- 教員は、学習者がリスクを科学的に理解し、感染拡大を抑制するための論理的・批判的思考ができるようにする。
 - ・ リスク対処をルールがなくても判断し、自発的に考案できるように、
 - ・ 批判的思考とリスクリテラシー(メディア、科学、統計、健康リテラシー)教育

45

批判的思考力と リスクリテラシーの育成

- 何のために批判的思考力を教えるのか？
 - これまで学校教育、健康教育では領域知識を教えることが中心(欠如モデル)
 - それに対して、批判的思考力を教えることは、リスクに対処するために、自らの関心と経験、価値観にもとづいて、適切に考える良き思考者(good thinker)に市民を育てることを目標とする。
→自己エンパワメント(self-empowerment)

46

批判的思考力は教えることができるか？

- 批判的思考を構成するスキルを教えることによって、学習者は批判的思考ができるようになる(欠如モデル)
 - 批判的思考の教育は、汎用スキルの教育
 - ・ 批判的思考力のすぐれた者は多くのスキルをもっている
- 思考スキルだけを訓練するよりは具体的場面での問題解決過程全体の中で教える方が効果が高い(文脈モデル)
 - 他の領域に転移することを想定(Halpern, 1987)
 - コロナリスクへの問題解決と対処を通して教える
- スキル/知識の教育と問題解決活動の統合

47

リスクリテラシーを高めるには リスクリテラシーを育成するための2つのルート (1) 学校教育による育成

- リスクリテラシーと批判的思考力を直接高める(欠如モデル)→リスク認知と行動の変容
- リスクリテラシー教育を通して、批判的思考に支えられたメディアリテラシーを身につけ、証拠に基づいて論理的に考え、探究行動する批判的思考態度の育成(市民参加モデルの基盤)→自己エンパワメント
コロナ問題を通して、教科教育を越えて、証拠に基づいて論理的に考え、探究行動するために、Web情報収集、マスメディアの分析的読解や視聴、討論、作文、グループプロジェクト、ゲームによる育成

48

学校教育における育成方法

a 批判的読みや視聴

- 新聞やネットの記事, 本などを**評価しながら読む/視聴する**
 - ・言葉の定義, 主張の信頼性や客観性, 科学的な証拠, 論理的な展開, 対立する意見など様々な幅広い観点から評価
- **メディアを解読する能力(メディアリテラシー)**
 - ・同じニュースに関して, 報道機関による違いは?
 - トップニュース(記事)は? 無視, 省略は?
 - 視聴者をひきつけるためにどのような工夫が?
 - ・コメンテーターは専門家か?
 - ・論争的な意見は多面的に採り上げているか?
- **問いを出す**
 - ・この図表の目的は何か? ゆがみはないか?
 - ・この結論(終わり方)で良いのか?

49

b. 討論

1. 問題や使うことばの定義を明確化する
2. メンバーの主張の把握する
 - ・皆が自由で**平等な発言**(しゃべりすぎない, ずっと黙っていない)
 - ・客観的**事実**と個人的**心情**を区別し, **配慮**
 - ・賛否両論の根拠の強さと数の判断
 - ・質問・批判するときは, **建設的に, 相手を傷つけないように**穏やかに(論を批判しても, 個人, 団体の批判はしない)
3. 結論を導く
 - ・多様な意見に耳を傾け, 認め, その違いを越えて,
 - ・皆が合意に向けた努力をする, しかし無理をしない.

50

c. レポート・作文

- 論理や主張について, **多面的**に考察する
 - ・**テーマについて, 根拠に基づいて主張**する
- チェックポイント
 - » テーマに答える主張(結論)を出しているか
 - » 主張を支える根拠を複数の観点から出しているか
 - » 根拠は重要順か
 - » 根拠同士は関連づけられているか
 - » 想定した反論に答えているか
 - » 最後に, 主張と一致する, 全体のまとめをしたか

d. 発表

- 聞き手が直ぐに理解できるように, 目的, 方法, 結果のポイントを伝える
 - 熱意, 自信, 誠実さなどが伝わるように
 - 練習する, 経験する→上達する
- 聞き手は
 - 励ましと批判のバランス
 - 建設的コメント

51

リスクリテラシーを高めるには(つづき)

(2) コミュニティによる育成(市民・学習者参加モデル)

- ・ 家庭, 学校, 職場, 地域において, リスクに関する批判的 思考に基づく対話ができる場をつくる
 - ・ リスクリテラシーと批判的思考態度を持つことが重要
 - ・ 適切な情報を自分自身で集める,
 - ・ 話題や情報を人に正確に伝える,
 - ・ 物事を決断したり解決
- コミュニティにおける意見の対立は, 高次リテラシーと**批判的思考のスキル**を用いて, **相手の話を傾聴し, 叡智をもって相手も自分も満足できる解決を導く**
- ・ 価値観による対立は, **マイサイドバイアス**の自覚と, 多角的な視点によって, 異なる価値観を理解し解消

52

9. まとめ

(1) 子どもたちはリスクに囲まれた未来のために何を学ぶべきか

OECDのEducation 2030プロジェクトによる枠組み
4つの育成するコンピテンシー(田熊・秋田,2017を改変)

- ① **知識**: 教科の知識(数学, 科学リテラシーなど), 教科横断的な知識(グローバルな市民リテラシー, リスク, メディア, ICTリテラシー, イノベーションなど)と実践的知識(ノウハウ的スキルや知識, 職業や専門的知識など)
- ② **スキル**: 認知的スキル(批判的・分析的・創造的思考, 問題解決など), メタ認知的スキル(学習方略, プランニングなど), 社会的・情動的スキル(コミュニケーション, コラボレーション, 感情コントロール, 共感など), 身体的・実践的スキル(運動, 機器操作, ライフスキルなど)
- ③ **態度と価値**: 前者は他者の尊重, 責任感, 信頼など, 後者は, 正義, 高潔さなど

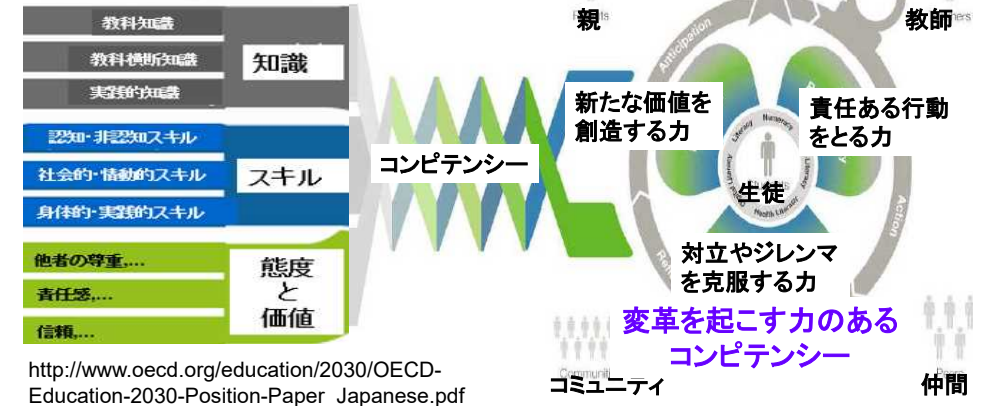
上記は新学習指導要領における「資質・能力」の3本柱に対応

53

OECD教育とスキルの未来2030

The OECD Learning Framework 2030

学びの羅針盤: 生徒が教師の指示をそのまま受け入れるのではなく, 未知なる環境を自力で進み, 責任意識を伴う方法で, 進むべき方向を見出す必要性を強調



④ 変革を起こす力のあるコンピテンシー (transformative competencies)

- (コロナ後に向けて) 私たちの社会を変革し, 未来を作り上げていくためのコンピテンシー
- 3つのカテゴリー
 - 新たな価値を創造する力
 - 適応力, 創造力, 好奇心, 新しいものに開かれた心
 - 対立やジレンマを克服する力
 - 他者のニーズの理解, システム思考(批判的思考)
 - 責任ある行動をとる力
 - 自己調整, 自己コントロール, 自己効力感, 責任感, 問題解決, 適応力

55

学習者のエージェンシー(主体性): 複雑で不確かなリスク社会を歩んでいく力

よりよい社会を築く主体となる

- 自らの行動で自分や自分の周りをより良い方向へ変えられるという自己効力感をもつ
- 社会参画を通じて人々や物事, 環境がより良いものとなるように影響を与えるという責任感を持っていること
- 進んでいくべき方向性を設定する力や, 目標を達成するために求められる行動を特定する力が必要
 - 批判的思考力が重要
- エージェンシー(主体性)発揮のためには, 共同エージェンシー(学習者が目指す目標に向かって進んでいくことを支える, 双方向的で互恵的な協力関係)が重要

56

(2) 結論: コロナ禍に求められる 批判的思考力育成のために

1. 土台となる教科の知識の育成

- 教科そして教科横断的な知識を, 各教科そして総合的な学習の時間で育成
- 知識が, **コロナ禍の諸問題といかに関わる**かを, 学習者に考えさせる

2. 1の知識を生かすために, 認知的・メタ認知的スキルを育成

- 授業において, **教科の見方・考え方**, 認知的・メタ認知的スキル (**批判的思考**や学習方略など)を明示的に教えて, 学習者に意識, 習得させる
- さらに日常生活, **コロナ禍の問題解決**などの中で活用, 応用できるようにする

3. 非認知的スキル(態度と価値, 主体性)の育成

- **社会的・情動的スキル**は, グループ活動などの相互作用的学習のなかで育成
- 答えが一つでないコロナ禍の論争的テーマ(例: 格差社会など)を討論
 - 他者の多様な価値観を知り, 相手の価値観や信念を尊重し, 感情に配慮しつつ, 合意を形成するなどの経験を通して学ぶ
- **コロナ禍の困難を克服するために, 目標達成のために方向性を定め, 周囲のために, 対立やジレンマを克服し, 多様な他者と協働する**

57

主な参考文献(つづき)

楠見 孝・子安増生・道田泰司 (2011). 批判的思考力を育む: 学士力と社会人基礎力の基盤形成 有斐閣

楠見 孝・道田泰司(編) (2015). ワードマップ 批判的思考: 21世紀を生き抜くリテラシーの基盤 新曜社.

楠見 孝・道田泰司(編) (2016). 批判的思考と市民リテラシー: 教育, メディア, 社会を変える21世紀型スキル 誠信書房.

奈須正裕・久野弘幸・齊藤一弥. (2014). 知識基盤社会を生き抜く子どもを育てる: コンピテンシー・ベースの授業づくり. ぎょうせい

OECD (2016). *Global competency for an inclusive world*.

<http://www.oecd.org/pisa/aboutpisa/Global-competency-for-an-inclusive-world.pdf>

OECD (2018). OECD Education 2030プロジェクトについて

<http://www.oecd.org/education/2030/OECD-Education-2030-Position-Paper-Japanese.pdf>

OECD (2019). OECDラーニング・コンパス(学びの羅針盤 2030)

http://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/OECD_LEARNING_COMPASS_2030_Concept_note_Japanese.pdf

田熊美保・秋田喜代美(2017). 新しい学力像と評価のあり方 秋田喜代美(編) 学びとカリキュラム(岩波講座 教育 変革への展望5) 岩波書店 pp.273-309

59

主な文献

Eales-Reynolds, L. J.,他 楠見 孝他訳 (2019). 大学生のためのクリティカルシンキング: 学びの基礎から教える実践へ 北大路書房

楠見 孝 (2013a). 科学リテラシーとリスクリテラシー 日本リスク研究学会誌, 23(1),1-8.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/sraj/23/1/23_29/_article/-char/ja/

楠見 孝 (2013b). 良き市民のための批判的思考 特集「批判的思考と心理学」, 心理学ワールド, No.61, 5-8.

http://www.psych.or.jp/publication/worold_pdf/61/61-5-8.pdf

楠見 孝 (2017). 学校教育における批判的思考と市民リテラシーの育成 武田明典(編) 教師と学生が知っておくべき教育動向 北樹出版 p29-35

楠見 孝 (2018a). 学力と汎用的能力の育成 楠見孝(編) 教育心理学(教職教養講座 第8巻). 協働出版

楠見 孝 (2018b). リテラシーを支える批判的思考: 読書科学への示唆 読書科学 60(3) 129-137 <http://hdl.handle.net/2433/234994>

楠見 孝 (2018c). 批判的思考への認知科学からのアプローチ 認知科学 25(4), 461-474 <http://hdl.handle.net/2433/235926>

楠見 孝 (2019). 探究学習を支える説明力 山本博樹(編)教師のための説明実践の心理学 ナカニシヤ出版

58

より深く学びたい人のために



60